

自分の考えを深める価値ある話し合い活動のための取り組み

―「パネルディスカッションをしよう」(三年)の実践から―

神奈川県横浜市立錦台中学校

山内 裕介

育成を目指す学力について

学校生活の様々な場面で、話し合いは行われる。しかし、人の話を聞かず自分の考えに固執したり、発言することに意味を見出せず沈黙を守ったりする生徒の姿が見られることがある。活発に意見を交換し、自分の考えを広げたり深めたりするような価値ある話し合いはなかなか難しい。

そこで、次のような学力の育成を目指した実践を行った。

相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合うことを通して、自分の考えを深めることができる力

本稿では、右の学力育成を目指した実践で私を取り組んだことを紹介する。学習材とし

ては、「パネルディスカッションをしよう」(『現代の国語3』三省堂)を使用した。

学力育成のプロセス

第Ⅰ次(一時間)

- ・本単元のねらいとパネルディスカッションについて理解する。
- ・パネルディスカッションのテーマに対する自分の立場を決める

第Ⅱ次(四時間)

- ・テーマに対する自分の考えをまとめる。
- ・同じ立場のグループで話し合い、考えをまとめる。

第Ⅲ次(一時間)

- ・この学習を通しての振り返りを一〇〇〇字程度にまとめる。

目指す学力育成のために

「話し合い」に関わる学力の育成においては、

「何を」「何のために」「どのように」話すのか、ということ学習者がきちんと理解した上で話し合い活動を行うことが必須である。そこで、次の三点を意識して指導を行った。

①テーマの設定について

話し合うテーマについては学習者自身で決められるのがベストだが、なかなかうまくはいかない。本実践では、「高校入試はどのような方法にするべきか?」というテーマを提示した。テーマに対する立場として「中学の成績のみ」「当日の試験のみ」「学区制(選抜はなく地域ごと指定の高校へ進学)」の三つから学習者が選択し分かれた。テーマ設定の理由として、「何が一番よいか」ということを決めるのではなく、お互いに考えを交流することで、進路決定に対する自分の考えを広げたり深めたりしていきたい、という趣旨を伝えた。

中学三年生にとって切実な問題である。それぞれの中学校生活、将来への不安・期待、

学力・学習成績などの自分の考えの背景にある問題を、自分をさらけ出すように話す姿が多く見られた。お互いを尊重して聴き合う話し合いのできるテーマを設定できたと考えている。

② 目指すところの明確化

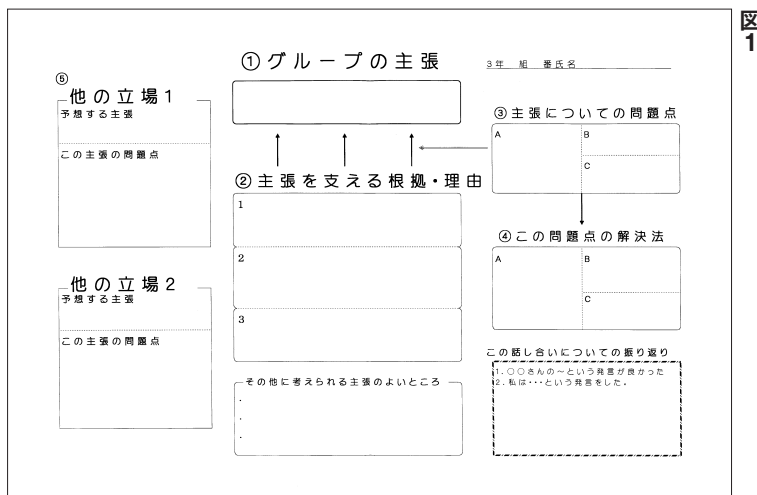
「何のために話すのか」ということが明確でなければ、話し合いは目指すところを見失い空回りすることになる。学習者が目指すところを意識しながら学習活動をするために、「話し合いを通して自分の考えを深める力」という目的を、私のことばで繰り返し示した。また、話し合いを進めていく中で、その育成につながる活動を指導の各段階において繰り返し行った。

第Ⅱ次が、話し合い活動の中心である。学習者は「個」の活動で考えをつつた後、「グループ」「全体によるパネルディスカッション」と段階的に考えの交流を行っていった。「個」においても交流はあるが、話し合いの最後に必ず「印象に残った発言」「自分はどういう発言をしたか」を書く活動を行った。話し合い活動のリフレクションという意味とともに、それを書くために（Ⅱそれを意識して）話し合い活動が行われるようにするためである。そのように育成を目指す学力と学習活動をつなぎ、段階的に繰り返し行うこ

とで、目指す学力の確実な育成を図った。

③ 話し合いのひな型を設定する

話し合い活動を活性化し、その中で学習者が実際にに行っている知的活動が、ねらいとする学力の育成ときちんと繋がっているものでなければ力はない。そのために、話し合



まとめ

以上のような取り組みの結果、パネルディスカッションでは活発に意見交換がなされ、第Ⅲ次での振り返りからは、話し合い全体を通して、多数の学習者が自分の考えを深めていったことも明らかになった。

やまうち ゆうすけ 教職に就いて六年目になります。学び合う教室、生徒を成長させられる教師を目指して奮闘中です。